

2-4. 足羽川の整備メニュー

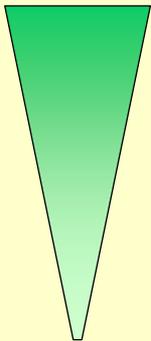
整備メニューの評価項目

メニュー選定の
優先度

優先度に関する要因

優先度

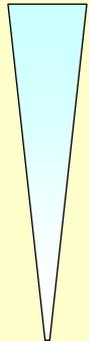
高い



低い

事業費

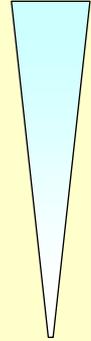
少ない



多い

土地改変
の程度

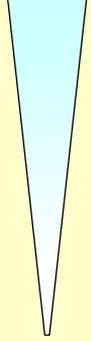
小さい



大きい

地域社会
への影響

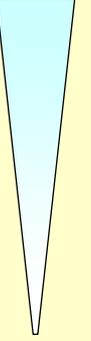
小さい



大きい

事業実現
の難易度

低い



高い

優先度は上記要因を総合的に判断して設定 68

S28.9型洪水の整備メニューの比較（河道内で処理する案）

治水対策メニュー	事業の概要と課題
低水路拡幅案	足羽川の高水敷は市民の憩いの場として親しまれています。また、足羽川の市街地流下区間の高水敷幅は九頭竜川や日野川と比べ非常に狭く拡幅は困難です。
河床掘削案	足羽川4.4km区間及びその下流河川の河床掘削が必要で、これに伴い、掘削残土の処理や低水護岸・橋梁(10橋)の改築・架け替えが必要となり、都市活動に影響を及ぼします。
引提案	日野川合流点から4.4km区間において10mの引堤が必要で、これに伴い、掘削残土の処理や橋梁の架け替え(10橋)、さらに約310戸の家屋移転が必要となり、都市機能に多大な影響を及ぼします。
堤防嵩上げ案	日野川合流点から5.0km区間において高さ30cm、延長5kmの兩岸にわたって堤防の嵩上げを行う必要があり、これに伴い、盛土約11万m ³ 、橋梁の架け替え(8橋)が必要となります。また、洪水時の水位を上げることは内水氾濫を助長し、氾濫時の被害が大きくなることが予想されます。

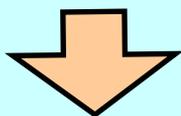
S28.9型洪水の整備メニューの比較（河道外で処理する案）

治水対策メニュー	事業の概要と課題
遊水地案	約80ha(270万m ³)もの広大な土地を確保するために、土地所有者への大規模な用地補償（地役権補償）が必要となります。加えて、広大な土地を将来に渡って制約するため、地元住民との合意形成が困難と考えられます。
放水路案	川幅40m、延長約6kmに渡って放水路を建設する必要があり、これに伴い、約340戸の家屋移転や道路橋や鉄道橋の架け替え(26橋)が必要となり、都市機能にさまざまな影響を及ぼします。
地下貯留案	地下貯留案では、延長約7km、直径約18mの地下トンネル1条を建設するため、大量の掘削土砂が発生します。また、トンネル内への土砂の堆積により機能が損なわれるため、洪水後には大量の土砂処理等の維持管理が必要となります。
足羽川ダム1川導水案	足羽川ダム1川導水案では、水海川からの導水路1条を建設する必要があり、これに伴い約50戸の家屋移転が必要になる他、貯水池が出現するため環境への配慮が必要となります。

**(1) S36.9型洪水に対応する
「その他の貯留施設」について**

足羽川におけるS36.9型洪水への対応について

S36.9型洪水（目標流量 $2,900\text{m}^3/\text{s}$ ）については、足羽川ダム4川導水では目標とする洪水調節が不可能であるため、さらに、遊水地またはその他ダム等の施設が必要となります。



計画期間内の目標としては非常に大きな洪水であり、事業の実現性は極めて困難と判断されます。

ダムと遊水地の比較 (S28.9型洪水の場合)

項目	遊水地	ダム
整備内容	・遊水地により洪水調節する。	・足羽川ダムにより洪水調節する。
効果	・遊水地下流に効果が限られる。	・ダム下流全川に効果がある。
土地改変の程度等	・約80haの水田が遊水地となる。 ・周囲堤や道路の嵩上げによる改変があるが、その程度は小さい。	・約90 [*] haの土地が水没し、貯水池となる。 ・導水路は呑口、吐口の改変にとどまる。
地域社会への影響	・遊水地内に生じる新たな土地利用制限等による地域社会への影響が課題。	・約50戸の家屋移転が必要になる。
計画期間内の実現性	・地役権設定に対して地元住民との合意形成が非常に難しく長期間を要すと判断される。	・計画期間内での実現は可能と判断される。
備考	・将来の治水安全度向上策に対しては、約540haもの土地及び新たな多くの補償家屋(約450戸)が生じる。	・将来の治水安全度向上策に対しては、施設の段階整備検討が必要となるが、対応は可能である。 ・必要な場合は、正常流量の補給が可能。

*)ダムの構造により水没面積は変わる